

お国自慢



三機工業(株)

八郎湖周辺清掃事務組合
男鹿市半島と干拓が育む「大地と人の物語」
八郎湖周辺クリーンセンター

1. はじめに

「悪い子はいねがー」「泣ぐコはいねがー」と大晦日の晩に奇声を発し、出刃包丁（模刀）を振り回しながら鬼の面、ケラミノ、ハバキをまもって練り歩き、家に押し入り子供や初嫁、怠け者を探して暴れる。一見怖いですが、実は来訪神である「男鹿のナマハゲ」で有名な秋田県男鹿市を中心とした八郎湖周辺地区をご紹介します。

施設所在地の男鹿半島および干拓でも有名な八郎潟は、米代川と雄物川の運搬土砂が堆積してできた砂州によって陸続きとなった陸繋島で国定公園の指定を受けており、さらに隣接する大潟村とともに、男鹿半島・大潟ジオパークとして、日本ジオパークに認定されています。

気候は、日本海岸式気候に属し、年平均気温は約11℃です。また冬季に日本海からの季節風が吹き付ける積雪寒冷地ですが、秋田県内陸部よりは降雪が少なく、比較的温暖な地域です。



2. 施設の紹介

八郎湖周辺クリーンセンターは、秋田県男鹿市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村の5市町村で設立された八郎湖周辺清掃事務組合から発注され平成20年3月に竣工した熱回収施設とリサイクル施設です。

3. 施設の概要

- ・施設名称：八郎湖周辺クリーンセンター
- ・所在地：秋田県男鹿市松木沢字板引沢台73番地
- ・処理能力：熱回収施設】60t/24h
(30t/24h × 2系列)
リサイクル施設】15t/5h
- ・処理方式：ストーカ方式
- ・敷地面積：55,480m²
- ・延床面積：工場棟】7,128m²
管理棟、ストックヤード等】1,887m²

4. 施設の特長

(1) 耐久性の高い当社独自の焼却システム

熱回収施設の中心である燃焼設備は、当社保有技術の水冷ストーカ方式を採用しています。水冷ストーカは冷却効果が高い鋼板性水冷火格子を採用しており、以下の特長を有します。

- ・従来の鋳物製火格子と比較して、3～4倍の耐久性を実現しています。

- ・低空気比高温燃焼によりダイオキシン類を完全分解が可能です。
- ・火格子表面温度を低温で保つことができ、熱膨張がなく隙間のない火格子構造ゆえ、吹き抜けのない安定した燃焼、落じんの防止、熱しゃく減量の低減が可能です。

(2) 環境への配慮

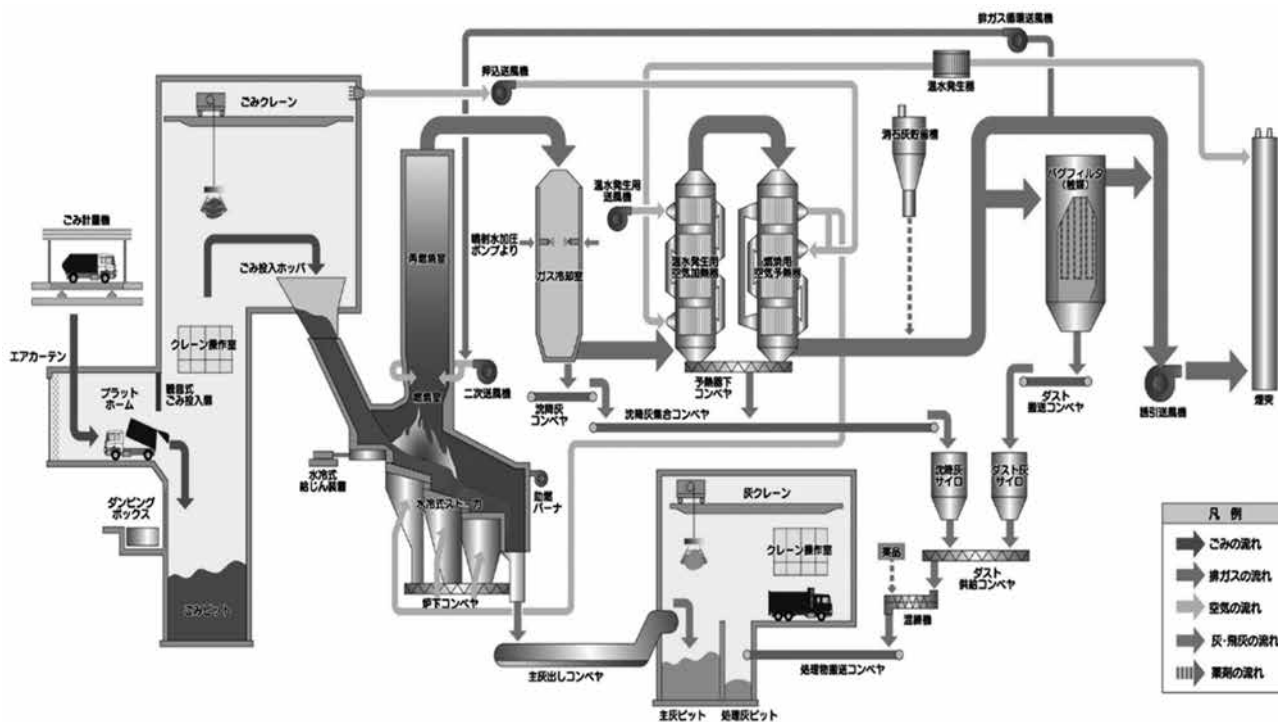
- ・排ガス中のばいじん・ダイオキシン類等を確実に捕集する独自の触媒フィルタを採用しています。
- ・ごみ焼却時に得られる熱エネルギーは、施設内で使用する給湯設備の熱源や暖房等に利用し

ています。また施設内のロードヒーティングにも利用しています。

- ・施設全体を清潔に保つことを重視した組合方針により、施設運転企業含めて一丸となって施設清掃を行っており、稼働10年経過した現在も、全く年月を感じさせない清潔さを保っています。

(3) 地域の方々に開かれた施設

ゆとりのある見学者通路から施設の内部を見学することができ、地域の方々にも開かれた施設となっています。



施設フローシート

八郎湖周辺の紹介

◇なまはげ館

平成 30 年にユネスコ無形文化遺産に登録され、「日本のナマハゲ」から「世界のナマハゲ」になりましたが、この地に根付いた理由など多くの謎が残されています。そんな歴史ミステリーと真実のナマハゲに触れられる施設です。

また本物のなまはげ衣装を身にまとして記念撮影もでき、「インスタ映え」間違いなしです。



◇真山神社

ナマハゲゆかりの地として神社の境内では、毎年2月に「なまはげ柴灯（せど）まつり」が行われる事でも有名です。

また境内の榎（かや）の木は、慈覚大師の手植えと伝えられた、樹齢1,100年の巨木があります。



◇大潟村干拓博物館

琵琶湖に次ぐ日本第2の広さをもった八郎潟が干陸されて、海水面より低い大潟村が誕生しました。干拓当時の記録、大潟村の発展の様子、今日の農業の姿や環境などを紹介しています。



◇秋田の美酒

秋田の酒による乾杯を推進する条例（平成26年公布 秋田県条例第九十七号）があるほど、秋田は酒の国です。五城目町にも有名な美酒「一白水成」があります。製造元の福祿寿酒造は、上酒蔵・下酒蔵・事務室・住宅の4ヶ所が、全国登録有形文化財として指定され、酒造見学等も実施しています。

注意）飲酒運転は絶対にやめましょう。お酒は20歳になってから。



※福祿寿酒造 HP より抜粋